

2022年度 第1回 共同教化部会(仮称) 議事要旨

Zoom 併用会議

- 1 日 時 2022年8月30日(火) 13時30分~16時30分
- 2 会 議 教区会館(京都教務所)3階 会議室 及び 各web会場
- 3 委 員 藤川 秀行(近江第6組 託仁寺 主査) 来所 河野 恵嗣(石東組 善徳寺 副主査)
東 美恵子(近江第1組 唯傳寺) 保木 円(近江第26組 浄立寺)
黄楊川 淳(丹波第1組 満林寺) 治田 裕臣(因伯組 緑浄寺)
藤枝 良太(因伯組 専證寺)
教務所 渡邊 晃(教区駐在教導) 赤松 崇麿(教区駐在教導)
- 4 確認事項
・8月1日付けで赤松委員が共同教化部会委員を辞任の上、教区駐在教導に就任の報告あり

▼2022年度組長・組門徒会長研修会について

- ・当日タイムスケジュールの検討。別紙参照
- ・6月部会議の際、藤枝委員がタイムスケジュールを作成することになっていたが、黄楊川委員によりバージョンアップされたものが提出されたので、それを使用して進めていく。
- ・黄楊川さん作成のタイムスケジュールを元に検討、会議の都度修正し反映

▼リーフレット(チラシ)について

- ・部会各委員提出の案を元に検討・アイデア出し。
- なるべくシンプルに心をかけた。南無阿弥陀仏を広めるアイデアを聞かせてほしいということ。鸞音くんなどのキャラクターを活用したい。
- 三つ折りリーフレットをイメージ。裏表で質問形式で書かせてもらった。
- これまでの会議で話された事で作成。寺院活性化支援室のようなチラシには魅力を感じない。その前段階の課題をいかに表現できるのか。それを一年間話し合ってきたので、そのまま載せればよい。
- お寺は誰のものなのかを言葉にした。寺の現状を可能な限り聞き取って、サポートできることを考えていきたい。出会いの場と教えに会う事によるお寺の魅力を発信したい。
- 巡回のネーミングについて考えた。巡回という言葉がそぐわない感じがする。教えにあうという事であればお寺でなくても可能な時代であるが、お寺にこだわりたい。できない理由が沢山ある中で、それでも現場のお寺にこだわりたい。決まった支援の形があるわけではない。だからこそ出向くことで声を聞き、知る事から始めたい。
- A4裏表をイメージ。教化自体に共に聞くという意味があるのではないか、その事を文章にした。それぞれの教化の場をつなぐ事はできないか。仮称となっている意味を説明。裏面には具体的なテーマを表現した。共命鳥をシンボルに。

※ チラシ 案 担当を決めてまとめてもらう。 担当 黄楊川 委員・東 委員

- ・現況についての共有が大切ではないか。
- ・5w1hチラシとしての機能が大事・読んでもらえる事が大事。
- ・三つ折りのチラシにするならば、紙質や色など、さらに時間をかけて作り込む必要があり、予算

も多く掛かる。今回は安価で、早く作ることでできる A4 裏表で作製する。今後、事業が軌道に乗ることがあれば、名刺代わりになるようなものを改めて考え、予算を取って作る。

- ・赤松委員の案にあった共命鳥は、とらえどころの無い共同教化を視覚的に表してイメージしやすくしているように感じられることから、共命鳥をイラストにしてみてもうだろうか。因伯組の小早川凡親氏に相談

▼推進員教習懇談会について

- ・今後の組教化を考えていくにあたり、組教導を対象にしていく。
- ・12月で組長改選があり、それまでに（各組の教導）各組に案内文を送る。時期はいつが適切か？
- ・組教導は現状、有教師に限られる上、選定は組会など限定的なものが多い。現行の組教導に絞るのか、新たに「教化担当者」という枠組みで考えることはできないだろうか。

▼今後の取り組みの予定

2023年4月 組訪問

5月 懇談会

- ・次回会議について

2022年度 第2回 共同教化部会（仮称）

2022年 9月 30日（金） 13:30～ 16:30

教区会館（京都教務所）もしくは状況により Zoom にて各ウェブ会場

以上